

教育支援センターだより

第20号 発行日 平成29年8月31日

子育てや家族、学校のことでも悩んでいませんか？



【学校生活に関すること】

- ・ 不登校のこと、登校しぶり
- ・ 集団にうまく入れない、友達ができない。
- ・ いじめ
- ・ 勉強についていけない。

【子どもの成長・発達に関すること】

- ・ 落ち着きがなく友達とのトラブルが多い。
- ・ こだわりが強い。

【養育に関すること】

- ・ 子どもの気持ちを理解したい。
- ・ 反抗的になり接し方がむずかしい。
- ・ 子育てに自信がもてない、子育てが不安。

ひとりで悩まず、お電話ください

★ご相談の流れ

受付の電話 ☎:60-1899

- ・ 今一番お困りのことや相談の内容について簡単におうかがいします。
- ・ センターに直接来て相談したいか、電話で相談したいかおうかがいします。
- ・ 連絡先などをうかがい、実際に教育支援センターに来る日程や時間を決めます。

電話相談

ご相談の内容によっては、お電話だけで終了する場合があります。

初回の相談

- ・ お電話で聞いたお困りのことについてさらに詳しくうかがっていきます。
- ・ うかがった内容をもとに見立てをお伝えします。
- ・ 教育支援センターでどのようなことができるか、方針をご提案します。

終了

ご相談の内容によっては1回で終了する場合があります。

- ・ フォローアップ
- ・ 他機関の紹介

継続して相談する場合

☆ 保護者の方とは…

お子さんについての理解を一緒にしながら、親御さんが責任と自信を持って子育てに取り組めるようサポートします。

☆ お子さんには…

カウンセリングやプレイセラピー【遊戯療法】で気持ちの安定をはかり、自分自身や自分の行動についての理解を深めていきます。

* お子さんの理解をより深めるために、相談のなかで取り入れることがあります。

- ・ 発達検査、知能検査など
- ・ 医療相談【囁託医による】
- ・ 学校、病院など他機関との連携、連絡

相談の終了

教育支援センターは、幼児期から思春期のお子さんの豊かな健全育成のため、一人ひとりの成長発達を支援する機関です。教育相談をはじめ、不登校のお子さんの適応指導、帰国・外国籍・国際結婚家庭のお子さんの相談支援、市立小・中学校でのスクールソーシャルワーカーによる支援などを行っています。

★6月23日に開催いたしました講演会の内容を抜粋して掲載いたします★
子育て中の保護者のみなさまに、お子さんの成長や発達を見守る上で参考としていただければ幸いです。

ことばを育む親子のかかわり

～ことばの発達過程と支援の形～

松浦 千春先生

ダイバース
(DIVERSE) ことばの発達支援・学習支援室代表/臨床発達心理士)

◆◆◆ことばが育つと世界が広がる◆◆◆

ことばは、「コミュニケーション」「思考」「行動選択」など様々な場面で用いられます。ことばを使うことで、自分の経験や考えを他者に伝えたり、他者の経験や考えを知ることができます。また、いま目の前にあるものに限らず、過去の話、未来の話も他者と分かち合うことができるため、ことばが育つと子どもの世界が広がると考えられます。

◆◆◆ことばの発達のプロセス◆◆◆

個人差はありますが、言葉の発達はある程度一定のプロセスをたどると考えられています。

順を追って成長するため、次のステップにつなげるためには、その前の段階を十分に養うことが大切です。



ことばの前のことば

ことばの前のことばとは、「表情でのやりとり（笑うと笑い返してくれる）」や「同時に感じる体験（一緒に物を見る、音を聞く）」をすることです。このような人とのやりとりは、ことばを身につけていくための基礎となります。

コミュニケーション言語

コミュニケーション言語とは、いわゆる「話しことば」のことです。表情のやり取りだけでなく、ことばを用いて、目の前の人と情報を共有します。上手にことばにできなくても、言いたいことを大人がくみとってあげることが大切です。

学習言語、書きことば

学習言語とは、教科学習で用いることばのことです。学習言語は、話しことばに比べ抽象的・概念的なことを表しています。書きことばとして用いることも多く、その場にはいない人とのやりとりとなるため、何を伝えたいのかくみとってもらうことが難しい場合もあります。

◆◆◆ことばの様々な側面◆◆◆

ことばは、「音韻」「語彙」「文法」「語用」「読み」「書き」といった様々な側面から成り立っています。

- 音韻とは…ことばを構成する音のことです。音を聞き分けられるようになると、唇や舌を使って少しずつ複雑な発音ができるようになったり、聞いたことがない言葉でもどのような音でできているのか分かるようになります。
- 語彙とは…知っていることばのことです。語彙は、「自分で言えなくても、ことばを聞けば意味を理解できる」→「物とことばを結び付けて使える」→「言い換えや比喩が使えるようになる」といったプロセスをたどります。
- 文法とは…文章を作る際の決まりのことです。単語から2語文になり、助詞（て・に・を・は）・接続詞（だから・しかし）などを使い始め、その後は過去形、現在形、受動態なども使えるようになります。
- 語用とは…場面に合わせたことばの使い方のことで、字面通りではない意味をくみ取れる力を表します。例えば「はさみ、持ってる？」との問いは、「はさみを使いたい」という意味を含んでいることが分かるといったことです。
- 文字の読み書きには…形を適切に把握する力、音と文字を対応させる力、見た情報と手の動きを対応させる力（黒板を見ながら文字を書く等）なども関係していると考えられます。

◆◆◆各側面の苦手さから考えられること◆◆◆

音韻の側面が弱いと…	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく聞き取れないため、語彙が増えづらい。 ・発音の誤りがある。 ・どの音とどの形を結び付けてよいのか曖昧になるため、読み書きが不安定になる。
語彙の側面が弱いと…	<ul style="list-style-type: none"> ・使うことばが限られている。 ・ことばの意味理解が曖昧なため、指示や文章の内容が理解しづらい。
文法の側面が弱いと…	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんとした文の形にならない。 ・時制（現在、過去、未来）が曖昧になる。 ・読んだ内容や聞いた内容が理解しづらい。
語用の側面が弱いと…	<ul style="list-style-type: none"> ・話し相手や状況によることばの意味の違いをとらえにくい。 ・話しの流れにあったことばを選択することが難しい。 ・省略されていることばを補うことが難しい。
読みの側面が弱いと…	<ul style="list-style-type: none"> ・書かれている文字を読み上げるのに時間がかかる。 ・内容を理解することが難しい。
書きの側面が弱いと…	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の形がとりづらい（見本があっても間違いに気が付かない）。 ・書きたいことを、適切な文字に置き換えられない。



ことばを育むには、どこが得意でどこが苦手なのかを把握して、サポートすることが大切です。

◆◆◆ことばの育み方◆◆◆

(1) 音韻を育む

ことばの音・そうでない音（冷蔵庫の音等）にふれることが大切です。

○ことばの音をとらえる遊び

（例）しりとり、さかさことば、たぬき（た抜き）ことば遊び等

○音の数・音の長さを見えるようにする

（例）音がある部分は手を叩く、音がない部分は手を握る等

家庭で取り入れ
やすい方法です



(2) 語彙を育む

ことばの意味を理解したり、言い換えや比喻を使っていけるようにサポートしていきます。

○意味をくみ取りことばで返す

（例）「ブーブー」→「車が走ってるね」

○ことばが少しずつでてきたら、さまざまな視点で意味を考えさせる

（例）仲間探し、3ヒントクイズ（例：「赤い」「甘い」「はじめに「り」がつく」→「りんご」）

○子供の目線にたって声をかける

（例）“高い高い”をして→「〇〇が見えるねー」

「こんな意味かなあ」
とくみ取って言葉で
返してあげましょう



(3) 文法を育む

その場にはない相手にも伝わるような言い方や文章の作り方を身につけていくことを目指していきます。

○真似する、助詞（て・に・を・は）等を加えて返す

（例）「きれい、した」→「きれいにしたね」／「びかびか」→「びかびかになったね」

○絵本やマンガにふれると、話しことばや書きことばの言い回しも学ぶことができます

写真の様子をことばにして振り返ることもおすすめです

(4) 語用を育む

他者の考えや前後の状況などを想像する力が身についてくると、場に合ったことばの使い方が身についていきます。

- 見えにくいもの（感情等）をことばにしてあげると、子どもも「あ、そうなんだ」と気づくことができます
- 日本語は主語を省きやすいので、主語を入れると伝えたいことが分かりやすくなります

やりとりが楽しい
という気持ちを大
切にしましょう

◆読みへの支援

新しいことにふれて楽しむ活動と読む練習（読める文字を増やす、読んだ内容を理解できるようにする等）を並行していくとよいでしょう。どちらも少しずつ積み上げていくことが大切です。また、知りたい内容にふれるために、デジタル教材のようなツールを使うことも効果的です（右参照）。

【教材・ツールの例】

- ・DAISY マルチメディアデージー教科書
(<http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/>)
- ・音声付教科書（テストと学習環境のユニバーサルデザイン研究機構）

◆書きへの支援

文字を書くことが難しい場合には、スマートフォンやタブレット等のツールを使うことも効果的です。文章を頭の中で整理したり組み立てたりすることが難しい場合には、文を作る練習を取り入れることも効果的でしょう。日記も有効ですが、文を書くことが難しい場合には、まず一文を作るところから始める等の工夫をしてあげましょう。

◆吃音について

吃音とは、ことばを繰り返したり、引き伸ばしたり、ことばが詰まったりする状態が続いている状態のことです。背景や要因はさまざまであると言われており、そのため吃音の状態やサポート方法も一人一人異なります。専門家に相談をしながら対応を考えていってもよいでしょう。家庭の中では言い直しや話し方を指導することはせず、話の内容をくみとり、やりとりを楽しみ、大好きなことを伸ばしていけるようにサポートしていきましょう。

◆◆◆もしも心配になったら◆◆◆

お子さんのことばの発達について心配なことがありましたら、一人で抱え込まずに医師や言語聴覚士、心理士等、ことばの発達や支援に詳しい専門家に相談することも選択肢の一つです。専門家に相談することで、サポート方法を検討するだけでなく、お子さんの状態について理解を深めることもできます。

◆相談をするにあたって

相談をする前に、聞こえ方（聴力、音のとらえ方等）や見え方（視力、見たもののとらえ方等）、感じ方の特徴、話している言葉や理解している言葉等を確認し、お子さんの特徴についてメモをしておくことスムーズに相談が進むでしょう。

相談の中で考えていけるとよいこと

- ・様子をみる期間を検討する（1ヶ月間様子をみるのか、半年間様子をみるのか）
- ・どこをみるのかを明確にする
理解している言葉を見るのか（「コップもってきて」が分かるか等）、話している言葉を見るのか
- ・家庭で本人に対してどんな働きかけをしながら様子をみるのかを考える



サポートを始めるのはいつからでも大丈夫です。できることを一つずつ積み重ねていきましょう。

無断での複製、引用、ネットへの掲載などは固くお断りします。問い合わせなどありましたら、下記までお願いいたします。

発行 武蔵野市教育委員会 教育部教育支援課 教育支援センター
所在地 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-11-37
電話番号 0422-60-1899 FAX 0422-60-1922